

令和4年度 美しい“ふじのくに” インフラビジョン推進会議 会議録

日 時	令和5年2月2日（木） 15時～16時30分
場 所	県庁別館8階 第1会議室AB
出席者氏名	<p>○ 委員</p> <p>五味 響子（しずおか流域ネットワーク 副会長） 下川 澄雄（日本大学理工学部交通システム工学科 教授） 原田 賢治（国立大学法人静岡大学防災総合センター 准教授） 日詰 一幸（国立大学法人静岡大学 学長）【委員長】 平井 一之（一般社団法人静岡県環境資源協会 専務理事） 山内 秀彦（特定非営利活動法人地域づくりサポートネット 代表理事） 山田 慎也（一般財団法人静岡経済研究所 理事）</p> <p style="text-align: right;">（敬称略、五十音順）</p> <p>その他、行政委員（庁内関係課長）12名 森本交通基盤部理事、政策管理局建設政策課（事務局）</p>
議 題	<p>1 令和4年度の取組評価について</p> <p>2 報告事項</p> <p>（1）インフラビジョンの広報について</p> <p>（2）政策研究サークル「インフラと静岡の未来を考える会」について</p>
配布資料	<p>1 次第、名簿、座席表</p> <p>2 令和4年度の取組評価（資料1）</p> <p>3 報告事項（資料2）</p>

1 議 題

- （1）令和4年度の取組評価について
- （2）報告事項

2 内 容

（1）令和4年度の取組評価について

[事務局より説明]

○日詰委員長 令和4年度の取組について、皆様方から御質問・御意見いただきましたと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ五味さん。

○五味委員 今回の台風15号のことですが、私、市民活動センターに勤務しているものですから、そこで市民の方々の多くの声を聞きながら、今回の被災のことを考えておりました。確かにインフラビジョン的には、巴川の災害対策は非常にうまく進んできて、先ほど御説明にあったように8割被害が減ったという話でしたが、一方、市民の方の防災意識がちょっと追いついていなかったなという感覚がすごくあります。例えば麻機遊水地もできたよ、だからここは溢れた水を貯める遊水地機能があるから大丈夫とか、あるいは大谷川放水路がすごく立派にできて、市民の方たちも、ずいぶん見学に行きました。そして安心だよということになっていたのですが、いざ、フタを開けてみると、いろんな被害が市民の生活の中に

発生しました。ですから、防災はインフラの整備だけでは、全く駄目で、人々の防災意識が大切だということをつくづく思いました。断水になって困ったときも、ほとんどの家庭で水の備蓄がされていなかったという事実もあります。

それから、北街道にたくさんの土砂が出ましたが、北街道沿いの人たちは、七夕豪雨後、いくら安全になったからといって、ここはもともと巴川が流れていたところだから、もしかしたらということもあるということをもっとわかって住宅計画を立てなければいけなかったと思うのに、そういうことをすっかり忘れて建築していて、低いところは全部浸水してしまいました。

ですから、インフラを整備するということは、国や県、公共機関もやるし、市民の意識の方も、これだけインフラが整備されているけれども、それに対してはどういうふうに関わっていったらいいのかということを一一人ひとりが考えていく、というような投げ掛けが必要で、両輪となって命を守ることだなと感じました。

例えば、流域治水と言っても、巴川の流域、あれだけ市街化された北街道沿いは、実はここは危ないところだから、ここまで市街化を進めないでほしいと言うとか、そういうことをしてもよかったのではないかと今回思いました。新しい宅地として売り出したから、新しいお宅がたくさん被災したということがあります。

また、山間地の土砂崩れに関しては、土そのものがだいぶ劣化してきていて、尾根筋によってすごく崩れやすいところできているというお話も聞きました。何十年も前の土は大丈夫だったかもしれないけれども、だんだん地球の地質等も変わっていく、ここら辺が弱ってきたなということも考えて、人々は暮らしていかなければいけないのではないかなということも思いました。

菊川や掛川の方でも被災したところがたくさんあったわけですがけれども、市民の方たちの一人ひとりがそういう意識を、例えば流域治水と言っても、この地域の流域治水はこういうことですよと。ここに家を建てるということは、流域治水的にも、土の保水力的にもよくないですよというそういう具体的な話をしていく、それを県の方ができなかつたら、市の方に言ってもらおうとか、そういうことも含めて伝えるということもやっていかないと、なかなか「安心・安全な県土づくり」として取りこぼすところがあるのではないかなと思って、今回の台風15号に際して思ったところです。

それ以外のところでは、特にどぼくらぶの活動のことは、非常に活発にされており、YouTubeも拝見しましたが、とても楽しくインフラビジョンを広報してくださっていて、御努力がよくわかります。これからも、みんなで未来をつくっていく、そして、命を守ることがもちろん一番大事だけれども、それには夢も必要で、ただ単にじっとして自分の今の命だけが助かればいいというのではなく、みんなの生き生きとした命が未来をつくっていくんだという、そういう両輪で、美しいふじのくにを実現させようという最後のまとめになっておりまして、大賛成で、すばらしい計画だなと思っております。

○日詰委員長 ありがとうございます。2点ほど、台風被害に伴う流域治水とどぼくらぶについて、御指摘がございましたが。はい、どうぞ。

○山田河川企画課長 今回の台風15号では県内の中西部を中心に、七夕豪雨以来の非常に大きな雨が観測され、多くのところで浸水被害が発生しました。先ほどの報告にもありましたが、巴川流域については、これまでの対策により被害が減ったということについて整備効果として評価いただくお話もありましたが、4千戸を超える家屋が浸水しております。管理者として令和2年度から流域治水の取り

組みを進めてきましたが、今一度しっかり、取り組まなければいけないということで改めて身が引き締まる思いであり、今後、浸水したところを中心に、来年以降、浸水をどう減らすことができるかという取組を重点的に進めることとしています。

流域治水の中には、ハード対策として河川での取組の他、水を溜める雨水貯留施設の整備や、それ以外のソフト対策として、ハザードマップの整備や避難の仕方、先ほど住まい方の話がありましたけども、特に都市計画法との連携についても流域治水の中うたわれておりますので、今一度それをしっかり関係する機関と台風15号を契機に、しっかり取り組んでいく必要があると思っています。

特に、住民の方への周知につきましては、これまでも機会あるごとに説明してきたつもりでありましたが、なかなかハザードマップを見てくださいますと言っても、しっかり見てくださる方もいらっしゃるけれど、本当にそうなのか、施設の整備効果などについても、今ひとつ、住民への周知が十分でないというところもありますので、御自分の住んでいる場所の確認の仕方も含めて、静岡市と連携しながらしっかりした説明する機会を設けたいと思っています。静岡市と話をしながら、取組や心構えというところをしっかりと対応していければと思っています。以上です。

○日詰委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。原田先生。

○原田委員 今言ったような、台風の状況というのは、被害が出ているということは、考えていかなければいけない点はまだあるということですが、一方で先ほどの質問の方にもありましたインフラというものが地域の方、インフラを利用する側の人たちにとって、他人事になってしまっているようなところがある。公が造ってくれるもの、便利にしてくれる安全を確保してくれるもの、快適性を提供してくれるものみたいな形で、利用する側にとってみると与えられるものになってきてしまっているのではないかと、というところが少し気になる場所です。

もちろん、安全、便利、快適といったようなところをうまく作り出すという意味で、インフラは非常に重要な役割を果たしていると思いますけれども、一方でそれが地域の人たちや利用者にとって、与えられるだけのものになってしまうと、何か機能が果たされなくなったときに、非常に大きな喪失感や不具合を生じてしまうようなことになるのかなと思います。

そういった意味で今回の台風で、いろいろ整備がされてきて、安全が確保されてきているという状況がある中で、少し長い時間の中での話になりますが、地域の人たちにも、どういった地域であるかということを理解してもらうプロセスや、またはどういった地域に今住んでいるという認識を持ってもらうとか、制度の上でも、最近ではいろいろな不動産会社でリスクをしっかりと表示して取引する取組もありますが、そのようなところも含めて、インフラの役割をもう少し考えてもらう機会を作れるような場があるといいと思います。資料の最後の方にもいろいろある形で、県民の方と取組を進めていただいていますけれども、より考え方を理解してもらうという取組をしていくことが重要だと思います。以上です。

○日詰委員長 ありがとうございます。何かございますか。

○山田河川企画課長 今回に限らず最近では全国各地で施設の計画規模を上回る雨が頻発していて、施設が守れないということが現実問題として発生してきています。当然、そういったものにしっかりと対処していくというところがありますが、

住民の方に避難をしていただく、住民自ら自助をしっかり働かせていただくということも必要なので、先ほども住民の方へ説明をしなければいけないという話をしていますが、施設の限界、なかなか管理者からは言いにくいところがありますけれども、やはり検証した中で、そこをしっかりとわかってもらった上で、住民の方にこういう形で対応していただきたいということをしっかり伝えていく必要があると思っています。

○日詰委員長 はい。どうぞ。

○北堀建設政策課長 先ほど五味委員から広報の話がありましたけれども、やはりインフラはつくって終わりではないので、交通基盤部の広報としてのどぼくらぶという冠の中で、インフラの役割を伝えていくということが一つの目的としてございます。どぼくらぶ講座として小中高への出前講座をしております。それ以外にも、現場で担当しているそれぞれの職員が、県民の皆様と接する機会もありますので、そうした中で工事の目的や役割、そういったものを地道に伝えていく、職員一人ひとりが広報マンということで、交通基盤部は進めております。災害対応もありまして、非常に忙しいところで、現場に行く機会が少しずつ減ってきているという実情がありますけれども、やはり広報という重要性もありますので、意識を変えて、住民の皆様と接する機会を通じて、インフラの役割を伝えていけたらと思いますので、この点についてもこれからしっかりと進めていきたいと思っております。

○日詰委員長 ありがとうございます。委員の皆様他にいかがでしょうか。山田さんどうぞ。

○山田委員 御説明ありがとうございます。今回は取組評価ということですから、いくつか資料を見させていただいて、気づいたところを述べさせていただきます。

まず、資料の26ページで、先ほどの説明にはありませんでしたが、一斉休工や週休2日を推進するという取組があります。これは、非常にいい取組ですが、事業者、現場の反応が実際どうかというところです。人材確保しやすくなった、非常によかったというのものもあるでしょうし、逆に業務がうまく回らなくなるとか無理があるとかという実態もあるかもしれません。私が県内の大手建設会社に聞いたときに、自営業の方、ひとり親方という形で、休暇が増えると、実際に稼働日が減って収入減に直結するという問題があって、下請の方から週休2日としないしてほしいという話があると聞いています。基本的にはいいことだと思いますので、そういった実態がないかどうか、あったとすればどういうふうに解決したらいいかというところを見ながら進めていただければ非常にありがたいなと思います。

それから資料の31ページ。最後のまとめのところです。4つ目の丸ポツの最後に、3次元点群データの話があります。これは非常に静岡県としても強みであり、先進的に取り組んでいるところで、非常に意味がある取組だと私も思っています。あえて今回のインフラビジョンの中で言うならば、3次元点群データをインフラビジョンに掲げられている各分野の3本柱、安全・安心、活力・交流、環境・景観の取組の中で、フル活用していただくことを考えていただきたいなと思います。

例えば、巴川の関係でも浸水の予測や事前対策に対して相当使えるのではないかと思います。実際使っているかもしれませんが。防潮堤の整備効果のシミュレーションも有意義でしょう。また、生活道路の危険箇所をつぶしていくというようなお話もありましたけれども、交通量を考慮した上でシミュレーションを行う

とか、インフラビジョンで挙げられている施策に対して、使っていけるものがたくさんあるのではないかと考えています。そういった活用事例が1つでもあると、インフラビジョンがうまく進んでいるということになりますので、それは今やっていただいていると思いますけれども、ぜひ積極的に進めていただければよりいいかなと思います。

最後に、細々としたことで申し上げます。29ページの取組のところではいろいろ広報をやられたということで非常にいいことだと思います。ただ、29ページは「絶え間ない改善改革」ということがインフラビジョンの目的となっている。それに令和4年度の取り組みはどうつながったのか。例えば、動画を配信してたくさん見てもらいましたということではなく、その取組の狙いは、それぞれの意見をたくさん聞いて、改善に繋げるとか、双方向のコミュニケーションを取るとか、それが最終的なインフラビジョンの目的だと思います。書き方の話になってしまうかもしれませんが、インフラビジョンの3つの柱、それからそこにぶら下がっている各項目に、具体的にどう繋がったのか、令和4年度の取組がどう繋がったのかということ、言葉を繋げていただければ、よりいいかなと思います。その中に、交通基盤部の技術職員の業務用PCのモバイル化と書いてありますけれども、これは具体的に何でしょうか。直行直帰できるようになって効率化が進んだということですかね。どんな改革が進んだのかということ、合わせて書いていただければ、よりインフラビジョンの推進に繋がっていくのではないかと思います。

○日詰委員長 ありがとうございます。3点ほど御指摘がありましたけれども、いかがでしょうか。

○百瀬技術調査課技術調査班長 週休2日推進については、実施する方の状況を確認しながらやっていかなければいけないことは、おっしゃる通りでございます。我々が、なぜこれやっているかという、働き方改革を進めて、まずは入ってくる人を確保しなければいけないとの思いからやっています。そうしないと、インフラをしっかりと保っていけないというところがあって実施しています。

下請けの方、特に日給制の方が、もっと働かせてほしいという話は、依然としてあるのは事実です。ただ、建設業も、令和6年度から時間外労働上限規制が適用されるということで、もう待たなしの状況になっておりまして、元請の方から話を聞くと、官側が推進してくれると、我々も下請に対して言いやすいということも言っておりますので、推進しております。

○増田建設政策課未来まちづくり室長 3次元点群データについてお話いただきましたけれども、3次元点群データを、道路、河川、砂防など多方面で使っております。画面を見ていただきたいのですが、今年度、施設台帳と3次元点群データとを合わせて、見える化をしていく取組をしております。「次世代インフラプラットフォーム」と呼んでいますけれども、これによって、Web GISの上に、3次元点群データ、それからインフラ施設の内容を搭載して、さらに、国土交通省が進めております3D都市モデルの「プラトー」というものがありますが、それらをWeb GISと合わせようという取組をしております。これによって、3次元点群データの見える化、それから施設のあり方みたいなものを一緒に見ることができて、なおかつ、先ほど御提言ありましたとおり、それを災害などに使っていこうというような取組をしています。

○北堀建設政策課長 絶え間ない改善・改革の件ですが、現場の方では、非常に業

務が多くて、なかなか県民と接することや、新しいことを始めるということがなかなかできない状況になっています。少しでもそういった事務の改善を進めていくということで、今年で言うと台風15号がありましたけれども、そこで得た教訓などから、より効率的にということで事務改善の検討を始めています。PDCAということで何かあったときにはしっかりそれを振り返って改善に繋げていくということは、普段の業務から始めるようにしておりますので、効果が出るようなところについては、重要な取組の成果として、わかりやすい表現で伝えられたらいいなと思っていますので、そこは続けてやっていきたいと思っています。

○日詰委員長 ありがとうございます。平井先生どうぞ。

○平井委員 国で決まっているものなのですね。「強靱な」という言葉は、抵抗感がありすごくひっかかるのですけれども、「SDGs」は、「強靱」よりも優しさを取り上げているのではないかなというふうに私は思っています。

静岡県としての実施指針というものを、お立てになっているようであれば御紹介していただきたい。これは国の指針をそのまま写したもので、県としての実施指針はないということでしょうか。今の3次元点群データの話、私も質問しようと思ったのですが、23ページで、とても面白い成果が出ていると思いました。プラットフォームの構築もどんなことをやるのかなと思っていたところ、御説明いただいてありがとうございます。3次元点群データを取り入れて、J-クレジットの認証を取得されたということがありました。このJ-クレジットを、カーボンオフセットに繋げていけば売買があって、一定のビジネス展開にもなり、そういったことも含めた仕組みのあり方はこれからも積極的にやっていただけたらいいかなと思います。

従来レジリエンスの話をしてきましたが、脱炭素の関係で、私は環境省の委員会に出席することが多いのですが、みんな「2050年カーボンニュートラル」というところから入っていく。その議論がいろいろなところでもありますけれども、今回のビジョンでも、3ページの最初で、構成と期間の2つ目のポツに、約10年後の2030年、2050年カーボンニュートラルを見据えた中で、2030年までのこれからの7年間で大事だということがあって、それを見据えたビジョンになっているという説明でした。

32ページのまとめで、令和5年度以降のあり方を真ん中に書いていただいています。その中でGXの話が出ていまして、県のインフラビジョンでもGX対応がこれから求められてくるのだらうと。令和4年度の御報告にもだいぶその要素が入っています。

そこで何を申し上げたかったのかといいますと、「グリーン成長戦略」を国が令和3年6月18日に公表していますが、SDGsは17の目標、「グリーン成長戦略」は14の重点分野があります。その中で、インフラに関係するものが、No. 8の「物流・人流・土木インフラ産業」。No. 11の「カーボンリサイクル・マテリアル」。これはセメントやコンクリートのCRなどのカーボンリサイクル。それから、No. 12の「住宅・建築物・次世代電力マネジメント産業」。ZEBやZEHの関係。こうしたことを織り込んでいかなければいけない。つまり、「グリーン成長戦略」を見据えたビジョンのあり方ということ、これから非常に求めたいということ、申し上げたかったということです。

一例で言いますと、24ページのカーボンニュートラルの部分に触れていただいているのですが、ZEBの事例として、今年度は藤枝東高校と交通管制センターがZEB Readyを達成したという実績を挙げていただいています。今後、Nearly ZEB、それ

からZEBに向けて、県有建築物も、ZEB対応を積極的にやっていくということについて、今後に向けてということで、何かありましたら、お聞かせいただけましたらありがたいと思っている次第です。

私どもが、環境省の「建築物等の脱炭素レジリエンス強化促進事業」で、150億円ぐらいお預かりしまして、この事業の中で、「ZEB化・省エネ化に資する高効率設計の導入支援に関する事業」の審査事業をしています。非常にZEB対応のリクエストが、全国から私どものところに来ているのですが、これは公的、民間含めて、今後の既存の県有建築物、あるいは新築について今後ZEB化をどういうふうに積極的に取り入れていくのか、この辺は非常に私としても関心あるところですので、国の「グリーン成長戦略」を見据えたインフラビジョンの進捗管理ということについても、県民の皆さまに見える化して進めていただきたいと思います。以上です。

○日詰委員長 どうぞ。

○稲垣建築企画課長 今、くらし・環境部の環境局で新たな政府実行計画を踏まえた県の実務編の改訂作業をしています。その中で、国が2030年までに50%削減というものをしていますが、それを上回る削減率を打ち出そうということで、改訂作業をしています。交通基盤部 建築部局としては、まずは今後建設する建築物につきましては、1回、建物を建ててしまいますと、数十年、悪い性能のまま続くということで、新たな計画では、徹底的な省エネ化を図るということでZEB Readyは確実に達成するというのを打ち出そうとしています。その後、75%削減のNearly ZEB、100%のZEBにつきましては、県のエネルギー部局と環境部局が、太陽光発電用のパネルをどのように乗せて、エネルギーをどのように活用していくか、県としての使い方のスキームを検討中のため、建築部局としては、スキームが決定した後に、速やかにパネルが設置できるよう屋上にパネル用の架台基礎を設置しています。現在、いくつかの高等学校で建て替え工事をしてしていますが、こちらについては、ZEB Readyに近い形で設計を行っています。今後の設計につきましては先ほど申したとおり、確実にZEB Readyを達成するという方針で取り組んでいくというつもりであります。以上です。

○日詰委員長 ありがとうございます。山内さんどうぞ。

○山内委員 2点ほど、ひとつ目は質問ですが、9ページ、10ページの「激甚化・頻発化する自然災害」というところの中で、昨年もちらっと触れましたが、まだそういう状況ではないという回答だったと思いますけれども、熱海の土砂災害や台風15号の浜松市天竜区などで、盛土による土砂災害があって、県民の目から見ると、そういうようなものの災害もこういった安全・安心の部分にかなり大きくなって、県民の生命財産を脅かすという話です。このような問題についても、開発規制や監視体制について言われている中で、聞くところによると、この部分は、主にくらし・環境部の方で所管されているという話でした。あと市町という問題もあり、これらと連携して、交通基盤部としては特に何もやってないのか、触れていないだけなのか、あるいは今やろうとしている最中でまだここに挙げることのできる状況でないのか、県民がぱっと見たときに、被害に遭われた方とか、関心を持っている方が多いと思うので、交通基盤部としてどういう関わりがあるのかということをお教えしてもらいたいのが1点。

私もサイクルツーリズムにいろいろ関わっていて、浜名湖や富士山、太平洋岸自転車道など、県のサイクルスポーツ聖地創造会議のメンバーになっています。

16ページの右側の写真に走行環境の整備として富士山の例がありますが、そこにも若干関わっていますけれども、こういったものが整備されてくることは非常にありがたいし、好ましいし、ウェルカムということで進めていただきたいと思います。インフラビジョンもかなり多岐にわたって、次世代に向けての新しい課題も次々出てきて、そういったものの取組も出てくるので大変と思いつつも、整備すると必ず維持管理の問題が出てきます。

橋やトンネルの維持管理には触れられていますが、自転車活用推進計画の中では、適切な走行環境空間の維持管理について、具体的に記載がない。自転車は2の次、3の次。車や歩行者が優先で、最後に自転車。おまけみたいな形が多いですが、県も伊豆や富士山、太平洋岸自転車道、浜名湖をモデルルートに指定しています。特に、外側線の外側や路側帯に、草や舗装の割れ目、飛来物や大きな石が落ちていたりすることで、事故の元にもなります。これは、安心・安全にも関わってくると思っていますが、適切な維持管理を行政だけ、公共だけではなかなかできない。28ページにあるような多様な主体との連携ということで、リバーフレンドシップなどにも取り組まれておりますが、太平洋岸自転車道を見ると、ナショナルサイクルルートに指定されているものの、草が多く生えており、走る方から見ると、つくるだけつくっておいて、あとは何だという意見がかなりのサイクリストから出ております。

ですから、自転車道を維持管理しているということであれば、どうしているのかということ、今回の会議資料では情報量に限りがあるので伝えられないと思いますが、何らかの形で伝えていってほしいと思います。これは、SDGsの観点からも言えるかなと思います。よろしくをお願いします。

○日詰委員長 2点ほど、御指摘がございました。

○森本交通基盤部理事 熱海市伊豆山の土石流についてです。まず、昨年度から、どうして土石流が発生したかという技術的な検証を、交通基盤部が難波副知事を中心に行いました。行政のあり方については、経営管理部が検証を行っています。最後のページになりますが、元々のインフラビジョンの中に「県土マネジメント」ということがあって、「つくる」・「いかす」・「まもる」のマネジメントをしっかりとやっていこうというところです。そうした中で、台風15号を踏まえて、来年度、交通基盤部としてインフラビジョンの精神を入れて、どうやっていこうかというところをまとめたものですが、この中で赤い部分が県土マネジメントで、この中の片方に「台風15号を踏まえたあらゆる関係者と連携した安全・安心のレベルアップ」があります。左側には、「持続可能なインフラ管理による県土マネジメントの推進」ということで、維持管理をしっかりとやっていくということの中で、市町・民間との連携による維持管理体制の強化がありますが、熱海の事例についても、市と県との連携がしっかりとしていなかったところもありますし、また維持管理を行なう体制自体が、どうだったかっていうところも踏まえて、こういう形で示して、これをベースに来年度に向けて、交通基盤部としてしっかりと安全・安心のために組織も含めてやっていこうと考えております。

○日詰委員長 ありがとうございます。

○百瀬技術調査課技術調査班長 建設発生土の対策の推進について補足します。熱海や最近の静岡市北部の盛土は、違法な業者が行っている不適切な盛土です。そういったものは、くらし・環境部が中心となって、しっかりと規制していきます。我々が扱っている建設発生土も、規制が厳しくなると、今までのように処理がで

きなくなってきたという状況もあるので、交通基盤部としては、今年度、建設発生土の処理に関する基本的な方針策定の作業を進めております。来年度以降は、方針に基づいて、昨日も静岡新聞に記事がありましたが、ストックヤードを各地区に造っていきます。これは、一時的な仮置き場になりますが、処分する全体量を減らして、建設発生土の処理を持続的にやっていこうということを、今いろいろ検討して進めているところです。

○日詰委員長 ありがとうございます。

○山梨道路企画課長 自転車走行空間整備について、お答えさせていただきます。自転車の安全な走行環境の確保ということで、主に矢羽根型路面表示や案内表示の整備を、それこそ山内委員にも御助言いただきながら進めていますが、実際使う人の声も同時に聞きながら、側溝の蓋掛けや防草対策にも取り組んでおります。

今年度、来年度に、「安全で美しい県土環境保全事業」で、雑草の除去や、防草テープやコンクリート張りによる防草対策に取り組んでおります。伊豆地域のモデルルートとなる国道136号、414号、135号では、利用者の声を聞きながら、この2ヶ年で約11キロの防草対策を行っております。

また、官側だけではなくて、民間の力もという点では、アダプトロードという制度もあります。自転車走行空間整備が本格化する前からの制度となりますが、この制度を活用しながら、自転車の利用においても、支障がないよう適切な管理を行っていきたいと思っています。

○日詰委員長 ありがとうございます。下川先生どうぞ。

○下川委員 32ページの図は、非常によくできていると、感心をして見てみました。特に、3次元点群データの活用が、安全・安心のところの2つのボックスをしっかりとグリップしているというのは非常によいと思います。今日いろいろとお話しされた委員の先生方の御意見と課長さん方のお答えもこの中に大体収まっているとも感じていました。

私は、土木学会や交通工学研究会などの学会に所属していますが、その中で県の3次元点群データについては、非常に実務的で応用性がある、非常によいツールであるということをよく耳にしていますので、しっかりとお伝えしておきます。

ここで1つだけあるのは、「安全・安心」のところに2つあって、先ほど森本理事からも御説明いただいたところではありますけれども、「県土マネジメントの推進」と「安心・安全安心のレベルアップ」、これはそれぞれが独立しているものではなくて、相互的に作用されるものなので、他部局も含めた中で効果が出るような形で実践していただきたいということが、お願いの1つでございます。

それからもう1つ。7ページにあるプランで、赤色・オレンジ・グリーンのいくつかのポイントが、今日の会議資料の一番上、ヘッドラインになっていますが、実際にプランに落とし込んでしまうと、かなり事業に近い話になって、それが本年度の事業と直結するような形になりますけれども、実はもっと重要なのは、その前のページの方針のところの赤とオレンジとグリーンのアウトカムが非常に重要なのかなと思っています。何を言いたいかというと、この3つのアウトカムをしっかりと念頭に置いて、やはりいろんな施策を展開していただきたいなと思っています。そういった意味でいうと、核論でいろいろ御説明いただいたところの、例えば安全・安心であれば、ビジョンで示している県土づくりの方向性に書かれていることをヘッドラインとして最初に記載した上で、取組内容とプランがある

と、非常にいいかなと感じて、今日聞いていました。特に、先ほど絶え間ない改善・改革、フィードバックとかを考えると、ビジョンに戻ることが非常に大事なのかなと感じて聞いておりました。以上でございます。

○日詰委員長 ありがとうございます。何かございますか。

○北堀建設政策課長 6ページに記載している、「安全・安心」、「活力・交流」、「環境・景観」は、今後10年間における県土づくりの方向性を示しているものです。これは我々の進め方の大上段となる考え方になります。常に念頭に置きながら、プラン、施策を推進していくということになりますので、見せ方も、次年度以降は、これらをしっかり念頭に置いたというところがわかるような形でお示しできればと思います。

○日詰委員長 私から1つだけお伺いしておきたいことがあります。今年度になってから、物価高騰によって労務単価の上昇や、建設資材が非常に高騰しているということもあることから、入札不調となり、非常に難しい問題だと思っています。この計画を進めていくに当たって、社会経済状況の変動は大きく影響してくるだろうと思いますが、その対応策や、こういうプランを進めていくときに、お金をどうやって調達するか、その辺の評価はどうでしょうか。

今年大学では、特に電気代が非常に困ってしまっていて、今までの倍かかっています。そのお金は基本的には大学自体で工面していかなければならないのですが、そうすると他にしわ寄せがいくこととなります。このことは、交通基盤部だけではなくて、県庁全体の問題としてあるだろうと思いますが、その財源の管理とかそういったところは、インフラの場合非常に大きく関わってくるのではないかと思います。直接的に関係ない話なのかもしれませんが、大事な話だなと思って、お伺いしたいです。

○百瀬技術調査課技術調査班長 資材の価格の対応については、技術調査課で資材価格調査を毎年やっていますが、今年は調査の頻度を増やしています。今まで、半年に1回だったものを、もう1回臨時調査を行っていて、適切なタイミングで価格に反映できるような対応をしているところです。スライド条項というのもありまして、通常、当初契約した単価で工事を進めるのですが、物価が高騰したときには、物価高騰分を踏まえた単価に変更できるという制度でありまして、それで適切に対応しているところです。

○日詰委員長 わかりました。ありがとうございます。はいどうぞ。

○森本交通基盤部理事 今回の回答は、物価高騰に対して、制度的にどのように対応しているかという話です。もう1つ、委員長からあったのが財源の確保や今後の対応というところですが、まず1つは、今言った形で単価校正をして、また契約後でもスライド条項を適切に適用して、公共事業を進めていきますので、それについては業者側に負担をかけない形でやっております。

ただ、その分当然工事費が増えるので、予定していた分ができないということになります。それについては、ICTや新技術を活用して、できるだけコスト削減を図っていきます。あと、もう1つは、非常に物価高騰によって入札不調になるとありましたが、今回災害で非常にやることが増えて、やりきれないところが出てきました。入札不調で工事をやらせないと、災害対応が進まないの、入札の制度改善を検討して、施工する方が、受注できるような改善を図っています。

○日詰委員長 ありがとうございます。その辺り気になって仕方がなかったので

すけれども、うまくお答えいただいているということで了解いたしました。ありがとうございました。

ちょっと時間が押してきておりますので、次の方に進めさせていただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。次は報告2件について、事務局の方から御説明いただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(2) 報告事項

[事務局より説明]

○日詰委員長 ありがとうございます。あまり時間はございませんけれども、ただいまの報告の内容につきまして皆様の方から何か御意見ありましたら、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○山内委員 今お話のとおり、私の知り合いから、県の交通基盤部の人たちが、こんなことまでやってしまっていて非常にすごいねと言われましたことが、まず1つです。いろいろな取組やインフラビジョンを一生懸命広報したり、わかりやすくしたり、出前講座や、先ほど大久保先生のコメントにあったとおり、かなりいろいろ積極的にやっているなという意識で高い評価していますが、それが、県民の方に、こういったことをやることによって、「やったよ」ではなくて、先ほど山田委員のように、やったことによってどういう効果があって、要するにどれだけそういうインフラへの関心度が高まったか、それが例えばインフラビジョンとか、県の取組などに関する認知度が高まったかというものを把握するような方法や指標はあるかお聞きしたい。

○日詰委員長 お願いいたします。

○太田建設政策課企画班長 おっしゃるとおり、そういった課題感をどぼくらぶを立ち上げてから、今6年目になりまして、昨年度よりインフラビジョンの見直しに合わせて、どぼくらぶも正直、手当たり次第、いろいろな取組をやってきた中で、どのぐらい認知度が上がったのかインターネットのモニターアンケートなどで把握する調査を一度やってみました。結果としては、どぼくらぶの取組の認知度が、5ポイント上がったというところでは成果としては出ています。ですが、逆にまだ5ポイントという状況で、建設業の関係の方には、やはりある程度浸透してきている部分はあるのかなというところは、我々の認識としてはございます。

一方で、一般の方への浸透度というのがなかなかという部分は、やっぱり課題としても思っておりまして、そういった部分で、いろんな形で、皆さんに取組を伝えていく必要があるのかなということで、先ほどの出前講座などの取組を始めています。先ほど、藤枝どぼくらぶの話ありましたが、これは、藤枝市が、建設業の担い手確保に関する問題意識を持っているところは静岡どぼくらぶのコンセプトを活用しながら、うちの町でもやるんだという話の中で取り組んでいて、先日の出前講座では、私も伺いましたが、藤枝市という基礎自治体とその市の教育委員会は、密な関係がありまして、そういったところに我々がお手伝いさせていただくような形で、インフラの取組を少しずつ伝えていくような形もやり始めました。もちろん、県だけで取り組むことも重要ですが、他の自治体とか、より浸透度の高い市町と連携し、うまく活用させていただきながら、これまでの取組に加えて、より浸透させるような取組を少しずつ考えていきたいと思っています。

○日詰委員長 ありがとうございます。五味さんどうぞ。

○五味委員 新しい取組として、来年度からグリーンインフラを始めるとお話がありましたけれども、もうやっていたのではないかと。私が、しずおか流域ネットワークで活動していた頃は、15年ぐらい前ですけれども、その頃から多自然型の川づくりなど、さかんに静岡県の職員の方もたくさんやっていて、退職なさった方たちが一生懸命続けてきたことで、それこそグリーンインフラの1つの事例だったので、もうやっていますよということでもいいのではないかと思います。

そのPRが、最近弱まっていた、どちらかというところとハード整備に広報が偏っていたものを、例えば、立派な港湾とかをつくるだけがインフラではなくて、皆さんの身近にある自然をもう1度、多機能なものであるということを見つめ直して、そして、本当に大切なことですが、グリーンインフラは、SDGsの観点の中に入っているわけですね。グリーンインフラはパートナーシップが大切で、それこそ行政だけではやれないことで、市町や地域の中のいろんなグループさんと一緒になって、じゃあここのところの土を1回攪拌しましょうとか、土手をこういうふうにしましょうとか、そういうパートナーシップがグリーンインフラの基本かなと思っています。どぼくらぶ的にも、たくさんの人を巻き込めることだと思うので、もう1回それにスポットを当ててやっていただければいいかなと思います。

国土交通省も、グリーンインフラの発表会を一生懸命していますので、そういうところと絡んで、ふじのくには美しい県土を持っているというPRとしては、グリーンインフラの発達した県であるということのPRを国に対してもできますし、民間の一般の市民の方にもできる。パートナーシップは、別にいろいろな業者などとのパートナーシップのことではなくて、県民とのパートナーシップという意味でお使いになっていると思います。先ほどの資料でも、SDGsの目標No. 17 パートナーシップのマークだけは全部ページに書いてあったと思いますが、そういう意味でも、県民と一緒にやれることもやっていますよと、「一緒にやる」という意識が入ると、もっともっとインフラミンゴの人気も出てきて、すごく使いやすくなると思います。がんばっていただきたいと思います。よろしくお祈りします。

○日詰委員長 ありがとうございます。

○太田建設政策課企画班長 グリーンインフラに関する取組は、今初めてということでは決してなくて、これまでやってきた取組を整理、再認識するという必要かなと思っています。書いてあることは、今から始めるということではなく、改めて意識して、改めて部の職員全体が、自分の分野だけじゃなくて、そういうことを幅広く見つめつつ、いろんな取組をしていくために幅広く研究していこうということでございます。五味委員がおっしゃるとおり、皆さんと一緒にということも含めて、どういった取組をしていったらよいかを改めて考え、テーマとしております。

○日詰委員長 どうぞ。平井先生。

○平井委員 よく国が言っているのは、グリーンインフラ、これからはグリーン成長インフラという捉え方をしています。先程、広島ของサーキュラーエコノミー協議会の話がありましたが、まさに循環経済で、ただ循環をしてリサイクルすればいいということではなくて、サーキュラーエコノミーということは、そこに経済という印象を入れていく、そういうような視点が大事です。

要するに、環境と経済と社会の統合的向上ということをよく環境省は言ってい

ますが、経済産業省は環境と経済の両立と言ってしまうけれども、そういう意味ではグリーン成長インフラ的にシフトしていったら、そのグリーン化することによって、地域の経済の活性化や、地域の社会が豊かになるということ踏まえた仕組みの中で、グリーン化や環境を考えると。それが、グリーン成長戦略の14の重点分野がズバリそれにあたるわけですけども、そういう視点がこれから必要だと思います。以上です。

○日詰委員長 どうぞ。原田先生。

○原田委員 1点目は、広報で、せっかく小冊子を作っていたら、いろいろ使おうと思ったけれども、なかなか活用が難しい部分が見えてきたという御紹介をいただいて、またいろんな場面での使い方を考えていっているということだと思います。小冊子に付いているこのキャラクターも、非常に、「これ何だ?」と目に付くもので、どぼくらぶカレンダーについていたので、学生から、「これ何ですか?」と聞かれてしまって、十分に興味を持ってもらった状況があります。

引き続き、広く知ってもらうための努力を続けていく必要があると思いますけれども、その一環として、2点目の政策研究サークルをつくられたということで、これは静岡県庁の中だけで閉じるわけではないものです。なので、きっと広くいろんな人と話をして、未来についての社会インフラのあり方を議論していくような場を設定していくことが必要だと思います。おそらく、あのテーマを決めて、いろいろな人に来てもらいながらそこで話をして、オープンな形でやっていると、いろんなアイデアが出やすいと思うので、何か企画を検討していくことが必要だと思います。ぜひ御検討ください。

あと、カーボンリサイクルの話は非常に重要で、ぜひ静岡県の中でも、こういう取組が進むような、検討をしていただくといいのかなと思いますので、情報があれば提供いただけるといいと思います。

○日詰委員長 ありがとうございます。下川先生どうぞ。

○下川委員 広報については、引き続きということもありますが、さっきお話がありましたように、絵を描くことはなかなか難しいですね。絵ではなくても、例えばクラスで話し合いをする素材として使っていただくことはあると思います。例えば、伊豆地域では、これから伊豆縦貫自動車道が整備され、地域が大きく変わっていく可能性があります。そのような中で、子供たちに新しいまち、住みたいまちを創造し、議論してもらうことは意義のあることだと思います。土木事務所単位でそういうような活用の仕方も考えていただければいいと思います。

それから、サークルの話ですけども、これもどんどんやっていただければと思います。その中で、グリーンインフラの話がありましたけれども、その1つの方向性としてコンパクトなまちづくりの話は素材としてとてもいいのかなと思っています。もちろん、グリーンインフラのすべてではなく、一部かもしれないですが、非常に重要なテーマですし、特に関係部局がいろいろ関わってくるところでございます。例えば、ぱっと見ると、都市や建築のように見えますが、当然、河川や道路もありますし、市町の立場だとか農業もありますし、あとは産業部局も出てきます。ですので、そういったいろいろな方々と、これを1つの素材にしながら、グリーンインフラについて語っていただくということが非常にいい、例えば、道路で言えば、依存・連携というコンセプトの中で、階層的なネットワークを作って、いかに走行台数や走行台キロを減らしていくのかということが、カーボンニュートラルに繋がっていきますので、各部局やそれぞれの立場の中での

ろいろ議論されるのは非常に有意義であると思います。そういった中で、努力目標で結構ですが、最終的にそれを成果として1つのマップに整理していただき、こういう場でお示しただけだと非常に嬉しいなと思います。以上です。

○日詰委員長 ありがとうございます。山田さんどうぞ。

○山田委員 時間もありますので一言だけ。政策研究サークルにおいて、私はぜひ「インフラの維持管理」を進めていただきたい。一番、切迫感があってやらなければいけない。おそらく、数年後には確実に必要な費用と、投入できる予算のバランスが崩れてくることははっきりと予想されているということから、非常に重要なテーマだと思います。「未来を考える会」ということで、将来思考、前向き思考なので、「インフラの維持管理」は地味なテーマに思われるかもしれませんが、新しい技術や新しい発想などステージを1段変えるような、今までの延長線上にはない維持管理の仕方にはどういうものがあるのかなというようなテーマで、いろいろな方々から意見を収集すれば、きっと面白い研究になると思いますので、ぜひこれを進めていただきたいと思います。以上です。

○日詰委員長 ありがとうございます。時間が過ぎてしまいましたけれども、今の議論の中で、全体として何かありましたら。どうぞ。

○北堀建設政策課長 政策研究サークルは、今年、試行錯誤をしながらやり始めました。いろいろな御意見いただいた中で、我々の関連する方たちだけではなくて、異業種の方の意見を聞くことによって、新しい発想が生まれてくると思いますので、そういったところを念頭に置きながら進めていきたいと思います。

最終的なアウトプットとして、マップとしてうまく表現できればいいと思いますけれども、そこは試行錯誤という中で、成果を出せばいいと思いますので、よろしくをお願いします。

○日詰委員長 ありがとうございます。それでは、この件につきましても、委員の皆様から多数の御意見をいただいておりますので、ぜひ御参考にしていただければと思います。それでは、以上で、本日予定しておりました議事、報告事項が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。